

前期 自四月一日 至九月三十日
後期 自十月一日 至三月三十一日

第四十五條 會計審査會ハ每期理事長之ヲ召集シ當該期間ニ於ケル各部會ノ會計審査ヲナス但シ理事長必要ト認メタルトキハ隨時之ヲ行フ

第四十六條 會計審査會ハ審査員總務及主事ヲ以テ組織ス

審査員ハ學部、大學豫科、高等師範部、神道部及皇典講究所神職養成部ノ委員中ヨリ各二名ヲ互選ス

審査會長ハ理事長之ニ當ル

第四十七條 會計審査會ノ結果ハ審査會長會員ニ之ヲ報告スルモノトス

第四十八條 會計審査會ニ於テ不當ト認メタル支出ニ對シテハ當該部會理事其ノ責任ヲ負フモノトス

第四十九條 各部會ニ於ケル會計年度末ノ殘額カ當該年度本會補助額ノ十分ノ一以内ナルトキハ之ヲ次年度ニ繰越スコトヲ得十分ノ一以上ナルトキハ超過ノ部分ヲ苦學生救濟事業基金ニ繰込ムモノトス

第五十條 各部會ハ第一學期ニ於テ本會補助金ノ半額以上ヲ引出スコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 各部會ハ各部會又ハ本會ノ名ニ於テ債務ヲ負フコトヲ得ス

第五十二條 事情ノ如何ヲ問ハス次年度ノ豫算中ヨリ前借スルコトヲ得ス

第五章 雜 則

第五十三條 本會ニハ附屬部會若干ヲ置クコトヲ得

附屬部會ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五十四條 部會ノ創設・廢止又ハ併合若ハ本會則ノ改正増補ハ總會ニ於テ全員四分ノ三以上出席スルニ非レハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席員四分ノ三以上ノ賛成アルニ非レハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

第五十五條 各部會ニ於テ部會則ヲ新ニ制定シ又ハ之ヲ改正増補セントスルトキハ當該部會長ノ許可ヲ經テ會長ノ認可ヲ受クルヲ要ス

附 則

一八六

本會則ハ昭和九年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス
本會則施行ノ際現ニ部・會長ニシテ本學教授講師ニ非サルモノニハ當分ノ内第十一條ノ規定ヲ適用セス

國學院大學學友會附屬部會規定

昭和九年六月十八日議決
昭和九年七月七日公布

- 第一條 國學院大學學友會ニハ會則第五十三條ニ依リ附屬部會ヲ置クコトヲ得
- 第二條 附屬部會トハ其ノ發展向上ヲ助成スル目的ヲ以テ本部管理ノ下ニ本會ニ附屬セシムル部會ヲ云フ
- 第三條 附屬部會ノ創設又ハ廢止ハ總會ヲ開キ出席員ノ三分ノ二以上ノ贊成アルニ非レハ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ會長、理事長、副理事長、部會長及主事ハ採決ニ加ハラス
- 第四條 附屬部會ニシテ本會會則第四條ニ定ムル目的ニ副ハス又ハ不都合ナルコトアリタルトキハ前條ニ定ムル決議法ニヨリ其ノ附屬ヲ解除スルコトアルヘシ

- 第五條 附屬部會ハ部・會長一名幹事二名ヲ置クヲ要ス
 - 第六條 部・會長ハ本學教授講師中ヨリ之ヲ推薦シ本部ノ承認ヲ經ルヲ要ス
部・會長ハ當該部會ヲ總理ス但シ本會部・會長ノ兼任ヲ妨ケス
 - 第七條 幹事ハ前年度十一月末日マテニ當該部會員中ヨリ之ヲ選出シ本部ノ認可ヲ經ルヲ要ス
 - 第八條 幹事ハ當該部會ニ於ケル事務一切ヲ處理ス但シ本會役員及附屬部會役員ノ兼任ヲ許サス
 - 第九條 附屬部ノ豫算案ハ前年度十二月十五日マテニ本部ニ提出スヘシ
 - 第十條 附屬部會ニ對スル本部補助額ハ一部會ニ對シ本部歲入額ノ十五分ノ一以內ニ於テ本部之ヲ決定ス
 - 第十一條 附屬部會ハ一ヶ月乃至三ヶ月毎ニ會計決算書ヲ年度末ニハ年度末決算書ヲ本部ニ提出スルモノトス
 - 第十二條 附屬部會ノ會計審査ハ理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ總務及主事ヲシテ隨時之ヲ行ハシム
- 前項ニ定ムルモノノ外會計ニ關シテハ本會會則第四十四條第四十八條乃至第五十二條ノ規定ヲ

一八七

之ニ準用ス

第十三條 附屬部會ハ部會則ヲ制定シ本部ノ認可ヲ受クヘシ改正増補セントスルトキ亦同シ
第十四條 本規定ノ改正増補ニ關シテハ本會會則第五十四條ノ規定ヲ之ニ準用ス

附 則

本規定ハ昭和九年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス

學友會役員

(昭和十一年度)

會 長	河野省三	總 務 長	岩本武義
理 事 長	惠良雄吉	道義學會長	小柳司氣太
副 理 事 長	西村芳雄	國史學會長	三上參次
主 事 長	中根龍介	國文學會長	折口信夫
總 務 長	高階成章	漢文學會長	小柳司氣太
同 務 長	木村廣道	新聞學會長	堀江秀雄
同 務 長	杉田清	上代文化研究會長	植木直一郎
同 務 長	工藤祐	教育研究會長	堀江秀雄

滿蒙研究會長	松井義能	神道青年會長	田中義彦	皇國禊會長	寬克	辯論部長	松永克彦	文藝部長	金田一京助	劍道部長	宮西惟助	柔道部長	鳥野幸次	弓道部長	山本信哉	野球部長	千家尊宣	庭球部長	山田正形	蹴球部長	西角井正慶
--------	------	--------	------	-------	----	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

陸上競技部長	近藤宗男	馬術部長	水原義重	水泳部長	尾崎忠男	射擊部長	花山信勝	俳句會長	堀江秀雄	方言研究會長	今泉忠義	美術研究會長	石幡五郎	若木子供會長	堀江秀雄	音樂部長	田邊尚雄	吟詠部長	鳥野幸次
--------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------	------	--------	------	--------	------	------	------	------	------

教員無試験檢定ニ關スル法規

(イ) 高等學校教員規程ニ依ル無試験檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ノ指定 (拔萃)

大正八年文部省令第十號高等學校教員規程第十條ニ依リ左記ノ者ハ頭書ノ學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

修身 國學院大學文學部道義學科卒業者ニシテ哲學(一)、東洋哲學史(一)、教育學

(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

國學院大學文學部道義學科卒業者ニシテ倫理學ヲ專攻シ哲學(一)、東洋哲學

史(一)、教育學(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

國語 國學院大學文學部國文學科卒業者ニシテ東洋哲學(一)、漢文學(一)、教育學

(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

日本史及東洋史 國學院大學文學部國史學科卒業者ニシテ東洋史學(一)、教育學(一)、教育史

(一)ヲ選擇履修シタルモノ

哲學概説 國學院大學文學部道義學科卒業者ニシテ哲學ヲ專攻シ論理學(一)、倫理學

(一)、教育學(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

(ロ) 教員無試験檢定ニ關スル指定學校名及學科目 (拔萃)

國學院大學 (大學令ニ依ルモノニ限ル)

帝國憲法及皇室典範一單位、國民道德二單位、神道二單位、

倫理學一單位、東洋倫理學一單位、西洋倫理學史一單位、國

史一單位、社會學一單位、宗教學一單位、日本宗教史一單位

道義ニ關スル演習四單位ヲ修メ且教育學概論一單位、教育史

概説一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

元道義學科 修身

道義學科

修身(甲)

倫理科ヲ卒業シ教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

修身(乙)

哲學科ヲ卒業シ倫理學一單位、教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

國史學科

歷史(甲)

帝國憲法及皇室典範一單位、國民道德一單位、國史四單位、日本法制史一單位、東洋史二單位、西洋史二單位、史學研究法一單位、國史ニ關スル演習四單位ヲ修メ且教育學概論一單位、教育史概説一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

歷史(乙)

帝國憲法皇室典範一單位、古事記一單位、日本書紀一單位、神道概論一單位、國史學四單位、日本法制史一單位、東洋史學二單位、西洋史學二單位、史學研究法一單位、古文書學一單位、國史學演習二單位ヲ修メ且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

國文學科

國語、漢文(甲)

帝國憲法及皇室典範一單位、國民道德一單位、文學概論一單位、國文學史二單位、國語學一單位、言語學一單位、國史一單位、國文學ニ關スル演習五單位、漢文學ニ關スル講義又ハ演習三單位ヲ修メ且教育學概論一單位、教育史概説一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

國語、漢文(乙)

帝國憲法皇室典範一單位、古事記一單位、日本書紀一單位、神道概論一單位、文學概論一單位、國文學史二單位、國語學一單位、言語學一單位、國文學演習五單位、漢文學演習三單位ヲ修メ且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

豫科

英語

大學豫科ニ於テ英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ更ニ學部ニ於テ外國語學二單位(一單位ハ一學年每週四時間)以上ヲ選修シ且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル
英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ其成績優等ナル者ニ限ル

國學院大學	本	科	種	科	昭 和 五 年	昭 和 五 年 三 月 以 後 ノ 卒 業 者 ニ
附屬神道部	別	科	第 一	種	四 月 二 十 二 日	限 ル
					歷	史

官幣大社稻荷神社獎學金規程

- 第一條 本獎學金ハ官幣大社稻荷神社獎學金ト稱シ神宮皇學館本科及研究科並國學院大學々部高等師範部神道部及研究科ノ在學生ニシテ卒業後永ク神祇ノ祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シテ調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ之ヲ給付ス
- 第二條 本規程第三條以下ニ神社ト稱スルハ官幣大社稻荷神社ヲ、兩費ト稱スルハ神宮皇學館及國學院大學ヲ指稱ス
- 第三條 本獎學金受給付者ハ兩費ニ於テ品行方正思想堅實ニシテ學力優秀身體強健ナル學生ニ就キ兩費各別ニ銓衡シ神社ノ同意ヲ經テ之ヲ選定スルモノトス

- 第四條 本獎學金ハ一名ニ付月額金四拾圓以内トシ同一人ニ給付スル期間ハ三ケ年以内トス
- 第五條 本獎學金受給付者ヲ選定シタル時ハ兩費ハ本人ニ對シ連帶責任アル保證人ヲ立テシムルコトヲ要ス
- 第六條 獎學金トシテ神社ヨリ兩費ニ寄贈スヘキ金額ハ毎年度金參千圓以上トス
- 第七條 前條ノ獎學金ハ之ヲ兩費ニ切半シ毎半年度ノ始ニ於テ半額宛ヲ交付ス
- 第八條 神社ノ都合ニ依リ將來獎學金ヲ減額又ハ休止シ、或ハ廢止スル場合アリトモ既ニ選定シタル受給付者ニ對シテハ卒業迄之ヲ給付ス
- 第九條 本獎學金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ每學年終了後兩費ヨリ直ニ神社ニ報告スルモノトス
- 第十條 兩費研究科在學生ノ調査研究スヘキ題目ハ兩費ニ於テ豫メ神社ノ同意ヲ得テ決定シ其ノ成績ハ完了後本人ヨリ兩費ニ兩費ヨリ神社ニ報告スルモノトス
- 第十一條 兩費ハ本獎學金受給付者ヲ決定シタルトキハ成ルヘク其ノ受給付者ヲ、受給付者卒業シタルトキハ必ス其ノ卒業者ヲシテ神社ニ參拜セシムルモノトス
- 第十二條 受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタルトキハ兩費ハ神社ノ同意ヲ經テ相當ノ處分ヲ爲シ既

給ノ獎學金ヲ返還セシムルモノトス、但シ特別ノ事情アル者ハ兩費ニ於テ神社ノ同意ヲ經テ返還金ノ一部若クハ全部ヲ免除スルコトヲ得

第十三條 前條ノ返還金及預金利子又ハ剩餘金等ハ之ヲ次年度ニ繰越シ受給付者ノ旅費其ノ他必要ナル學費ニ支出スルコトヲ得

第十四條 本獎學金ニ關シ兩費ニ於テ給付規定其ノ他必要ナル内規等ヲ定メタルトキハ神社ニ報告スルモノトス

第十五條 兩費ニ於テ神社ニ對シ第三條第十條第十二條ノ同意ヲ需メス若クハ第九條第十條ノ報告ヲナサス又ハ第五條第十一條等ノ規定ヲ履行セサルトキハ神社ハ其ノ費ニ對シ其ノ費ノ新ニ給付セントスル獎學金ノ寄贈ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第十六條 兩費ハ各本獎學金ノ給付ヲ受ケツ、アル者及其ノ業績ヲ了ヘタル者ヲ指導シテ獎學金受給付者相互ノ氣脈ヲ通シ親睦ヲ圖リ神恩報謝ノ誠意ヲ表スヘク團體ヲ設ケシムルモノトス
兩費ハ前項ノ團體ニ對シ其ノ業績ヲ按シテ本獎學金又ハ第十三條ノ諸費中ヨリ補助金ヲ交付スルコトヲ得

附則

本規程ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則第六條ニ依リ神社ヨリ兩費ニ寄贈スヘキ昭和八年九年兩年度ノ金額ハ左ノ通トス

昭和八年度 金參千四百八拾圓

昭和九年度 金參千貳百四拾圓

本則第十六條ノ補助金ハ當分ノ内一費分年額金六拾圓以内トス

本規程ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

全國神職會教育補助金規程

第一條 本補助金ハ神宮皇學館本科及研究科並ニ國學院大學各部、高等師範部、神道部及研究科ニ在學セル學生ニシテ卒業後永ク祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シ調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ給付ス

第二條 本補助金受給付者ハ神宮皇學館長、國學院大學長ニ於テ、品行方正、學術優秀ナル學生ニツキテ銓衡シ本會ニ移牒スルモノトス

- 第三條 本補助金ハ一名ニ付一ヶ月金拾圓以内トス
- 第四條 本補助金ハ本會ノ都合ニヨリ減額又ハ停止スルコトアルヘシ
- 第五條 受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタル時ハ大學又ハ學館ハ本補助金ノ給付ヲ停止又ハ變更スルコトアルヘシ
- 第六條 本補助金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ每學年終了後大學及學館ヨリ本會ニ通報スルモノトス

國學院大學昭和十年度學事報告

本學ハ財團法人皇典講究所ノ經營スル所ニシテ明治二十三年七月ノ創設ニ係ル。爾來學則ノ改正規模ノ擴張ヲナスコト數次現在ニ於テハ大學令ニ依ル學部及修業年限二年ノ大學豫科ヲ置キ別ニ專門學校令ニ依ル附屬高等師範部及附屬神道部ヲ併置シ益本所本學創設ノ精神ヲ發揮スルニ至レリ。

○現在ノ各部ト卒業生ノ受クル特典トヲ示セハ左ノ如シ

豫 科 (二年)	學部 (三年)			卒業生ニ對スル特典 其ノ他
	道義倫理學科 哲學科	國史學科	國文學科	
英語	○高等教員 修身若クハ哲學概説 ○中等教員 修身	○高等教員 日本史及東洋史 ○中等教員 日本史 東洋史 西洋史	○高等教員 國語 ○中等教員 國語 漢語 英語	○中等教員 英語
在學中禮典一單位ヲ選擇履修シタル者ハ皇典講究所學階授與規則ニ依リ學正ヲ授ケラル				

高等師範部(四年)		神道部
二部	一部	(三年)
國語 漢文 歷史	國語 漢文 修身	○中等教員 歷史 (日本史 東洋史 西洋史)
○中等教員 國語 漢文 歷史 (日本史 東洋史 西洋史)		○中等教員 國語 漢文 修身
卒業者ニシテ祭式ヲ修メタル者ハ試験ノ上皇典講究所學階授與規則ニヨリ學正ヲ授ケラル		本科卒業者(別科卒業者ハ試験ノ上)ハ皇典講究所學階授與規則ニヨリ學正ヲ授ケラル

尙本學ニハ以上ノ外研究科、附屬高等師範部專修科ヲ設ケテ卒業者中更ニ研究ヲ重ネントスル者ノタメニ資ス。別ニ内務大臣ノ委託ニ依ル神職養成機關トシテ神職養成部ノ設アリ。

○本年度末ニ於ケル學生生徒數ト本日卒業若クハ修了ノ證書ヲ授與セラルル者ノ細別ハ左ノ如シ

部道神	科豫	部			學	定學生生徒員
二八〇	二四〇	三六〇				
		學科 國文	學科 國史	學科 道義	學生生徒數 (三月十九日現在)	
一九一	二二三	一九九	一〇七	一一		
		卒業者若クハ修了者數				
六〇	一〇七	六三	三一	一		卒業者及修了者中優等生氏名
林吉征藤 田木井 恭昌 博 宣德健一	發安石 知村橋 正利亮 三行平	○此 小清 島寺 正謙 正 二年 喜元	○柴 津春 岸小 仲 田木 井本 公孝 秀彌 三 德一 男郎 彦			

計	部成養職神	部範師等高	
		部二	部一
一、六〇〇		七二〇	
一、四〇八	六八	三一五	專修科二二
三五一	四一	七五	專修科七二
	山 中 木 岸 根 村 源 義 音 次 明 三 郎	川 内 崎 藤 喜 三 雄 茂	高 神 中 祖 床 川 芳 雄 一 保
二四名			

尙右優等生ノ中◎印ヲ附セラレタル者ハ成績特ニ優秀ニシテ
總裁宮殿下ヨリ御賞賜ノ榮譽ヲ擔フ者ナリ

○前年度迄ノ卒業生ノ職業別ハ左ノ如シ(昭和十年十月末日現在)

學 校 教 員

一、六四〇

計	死	不明又ハ未就職者	上級學校在學者	其 他	會 社 商 店 員	官 公 吏	神 官 神 職
四、三〇一	四三三	八九三	六三	一九二	一一四	一七八	七八八

○昭和十一年度ニ於ケル募集生徒數ハ左ノ如シ

豫 神 道 部	科	一 二 〇
高 等 師 範 部	部	六 〇
	(一部)	九〇
	(二部)	九〇

皇典講究所神職養成部沿革概要

皇典講究所神職養成部沿革概要

皇典講究所神職養成部ハ當初神職養成部神職教習科ト稱シ明治四十二年ヨリ内務大臣ノ委託ニ依リ引續キ開設シ來リシモノニシテ明治四十二年度ヨリ大正六年度迄ハ修業年限一ケ年、大正七年度ヨリ昭和二年度迄ハ甲種（中學卒業者一ケ年）乙種（中學三年修了者二ケ年）ノ二種ニ分チテ其ノ授業ヲ續行セシカ昭和二年三月國學院大學ニ於テ專門學校令ニ據ル神職部（後ニ神道部ト改稱）ヲ設置スルニ及ヒ一旦閉鎖スルコトニ決定セシモ斯界ノ實情ハ猶本養成部ノ存立ヲ必要トスルヲ以テ昭和四年四月ヨリ再ビ内務大臣委託ニ依リテ開設シ單ニ神職養成部ト稱シ現行制度ニヨリテ専ラ判任神職ヲ養成シツ、アリ

皇典講究所神職養成部規則

第一條 神職養成部ハ皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ委託ニヨリ神職タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 神職養成部ノ修業年限ハ二個年トス
 第三條 神職養成部ノ學科課程ハ左表ニ據ル

神職養成部學科課程表

學科	學年		時間
	第一學年	第二學年	
道義	國民道德(2) 神道大意(2)	國民道德史(2) 倫理學(2)	四
漢國文語	國文講讀(中世文) 近世文(4) 歌集講義(明倫、玉銜ノ類) 祝詞講義及作法(現行祝詞) 國文法 作文作歌 習字 漢文講讀(十八史略文章) 軌範ノ類	國文講讀(中世文) 中古文(2) 歌集講義(萬葉集) 古今、新古今集(2) 祝詞講義及作法(祝詞式) 作文作歌(課題) 習字 漢文講讀(論語孟子ノ類)	一三
歷史	國史(通史)	神祇史	九
			六

合時 計間	禮典			法制			體操
	神樂	神社祭式	雅樂	憲法要旨、法學大意	西洋史	古語拾遺(1)	
	(2)	(3)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)
三六	二	五	三				
	同	雅樂	神社祭式、衣紋、調度	神社實務(1)	皇室祭令(1)	神社概説(2)	(2)
三六	二	六	七				

備考 第二學年編入者ニハ漢文講讀ノ代リニ神社祭式(2)ヲ課ス

第四條 入學志願者ハ入學願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)最終學校ノ成績證明書ヲ添ヘ本所ニ出願スヘシ

第五條 生徒ノ入學資格左ノ如シ

一、中學校第三學年修了ノ者若クハ之ニ相當スル學歷アル者

二、中學校三學年修了程度ニ於テ左ノ學科ノ試験ニ及第シタル者
修身、國語、漢文、國史、地理、算術

第六條 中學校、師範學校、甲種實業學校及文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認定シタル學校ノ卒業者、專門學校入學者檢定ニ依リ檢定ラセラル者又ハ小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者ハ銓衡ノ上第二學年ニ編入スルコトアルヘシ

第七條 本所ノ認定セル地方神職養成所ノ學科ヲ履修シ一等司業ヲ得タル者ハ試験ノ上第二學年ニ編入スルコトアルヘシ、其ノ試験科目ハ左ノ如シ

修身、國語、漢文、國史

第八條 入學志望者募集人員ニ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

第九條 入學期ハ學年ノ始トシ中途入學ヲ許サス

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ其ノ父兄（父兄ナキモノハ親戚）ヲ甲保證人トシ東京市内又ハ附近町村ニ於テ一家計ヲ立ツル身元確實ナル者ヲ乙保證人ト定メ在學證書ヲ差出スヘシ、但シ父兄ノ市内又ハ附近町村ニ居住スルモノハ保證人ヲ要セス

第十一條 保證人死亡若クハ他ノ事由ニ依リテ變換ヲ要スルトキハ更ニ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第十二條 生徒ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ譴責停學又ハ退學ニ處ス

- 一、品行不良ト認メタル者
- 二、學力劣等又ハ疾病ニテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者

第十三條 生徒ハ半途退學ヲ許サス、但シ疾病其ノ他ノ事故アリテ在學シ難ク保證人ノ連署ヲ以テ

其ノ事由ヲ具シタル退學願書ヲ差出シ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限りニ在ラス

第十四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十五條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十六條 休業日左ノ如シ

祭日、祝日、日曜日

夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業 十二月二十六日より一月七日ニ至ル

春季休業 四月一日ヨリ同七日ニ至ル

第十七條 試験ハ學期末ニ於テ之ヲ行ヒ平常點ヲ參酌シテ學期ノ成績ヲ定メ學期ノ成績ヲ通算シテ學年ノ成績ヲ定ム

第十八條 試験ノ評點ハ百點ヲ以テ滿點トシ各科五十點以上通約六十點以上ヲ及第トス

第十九條 所定ノ學科ヲ修了セル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十條 病氣若クハ正當ナル事由ニヨリテ定期試験ヲ受ケ得サル者ニハ追試験ヲ行フコトアルヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入學ヲ出願スルコトヲ得ス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二、破産者ニシテ復權ヲ得サル者

三、禁治産者、準禁治産者

四、懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二個年ヲ經過セサル者

第二十二條 授業料ハ之ヲ徴セス

(備考) 第六條ノ「銓衡ノ上」トアルハ「國語、漢文、國史」ニツキテ試験ヲ行フ

特典 一、卒業者ハ官國幣社及神部署神職任用令第九條第七項ノ資格及府社縣社以下神社神職任用規則第十一條第四項ノ資格ヲ得
二、卒業者ハ國學院大學神道部選科ニ入學ノ資格ヲ得

昭和十一年度學科配當

一、神職養成部一年

國民道徳	岸本 芳雄	國文	天野 義郎
神道大意	同	作文	中野 佐柿
國文講讀(花月草紙・玉かつま)	千家 尊宣	習字	同
同 (増鏡・太平記)	西角井正慶	漢文講讀(十八史略・弘道館述史)	金田菊三郎
同 (徒然草)	春田 健一	國史(通史)	中野 佐柿
歌集講義(玉鉾百首)	中野 佐柿	古語拾遺	祝 宮靜
祝詞作法	御巫 清勇	東洋史	植木直一郎
		西洋史	井熊 誠一
			祝 宮靜

憲法要旨・法學大意	澤田 五郎	習 字	金田菊三郎
神 社 祭 式	大塚 承一	漢文講讀(論語・孟子)	中野 佐柿
神社實務(珠算)	稻垣 儀一	歷 史(神祇史)	矢尾板 敦
雅 樂	豐 時義	同 (古事記)	植木直一郎
同	多 久元	同 (日本書紀)	堀江 秀雄
同	多 忠保	皇室制度	植木直一郎
武 道(劍道)	鈴木 勝治	皇室祭祀令	佐伯 有義
		神社法令	森下 亮一
		神社概說	春田 健一
		神社實務	中島 正國
		祭祀要義	大塚 承一
		祭祀式	同
		雅 樂	豐 時義
		同	多 久元
		同	多 忠保
		武 道(劍道)	鈴木 勝治

二、神職養成部二年

國民道德史	岸本 芳雄
倫 理 學	同
宗 教 學	同
國文講讀(神皇正統記・平家物語)	堀江 秀雄
歌集講義(萬葉集・古今集)	千家 尊宣
祝 詞 作 法	西角井正慶
作 文	中野 佐柿
作 歌	同

昭和十一年十月十五日印刷
 昭和十一年十月二十日發行

國學院大學

電話青山五七八五・五七八七
 東京、澁谷區

(行印社洋東社會資合)

282
32

終